

2024年1月11日

## 《協働対話事例紹介：レゾナック株式会社》 人的資本経営についての協働対話

機関投資家協働対話フォーラム（以下、当フォーラム）を事務局として、企業年金連合会、第一生命保険、三井住友DSアセットマネジメント、三井住友トラスト・アセットマネジメント、三菱UFJ信託銀行、明治安田アセットマネジメント、りそなアセットマネジメント（50音順、以下、参加投資家）の7社は、2023年4月にレゾナック株式会社（以下、同社）との協働対話を実施しました。

### 【協働対話ミーティング開催の経緯】

当フォーラムでは、フォーラム参加の投資家がテーマを設定し投資家の考え方や要望事項をまとめたエンゲージメント・レターを作成し、企業にレターを送付したり、協働対話を申し込み、長期的な企業価値の向上に向けた企業と投資家との建設的な対話を行っています。

2022年10月からは、非財務情報の開示に関する投資家の期待を記したエンゲージメント・レター『サステナビリティ課題に対する認識と企業価値の向上に向けたストーリー整備のお願い』を、プライム市場の全上場企業に対して送付しました。

このような活動に注目していただいた同社より、同社で検討中の「レゾナックの人的資本経営」「レゾナックの人材マテリアリティの考え方や非財務目標」をテーマに、長期視点の機関投資家との意見交換を行いたいとの提案があり、2023年4月、今井CHROほか経営幹部の方々の同席のもと、オンライン会議による協働対話ミーティングが開催されました。

### 【協働対話ミーティングの概要】

#### 1. ミーティング出席者

同社：今井のり最高人事責任者（CHRO）、松古樹美サステナビリティ部長、萩森耕平人材開発部長、他 IR, SR、サステナビリティ担当者

投資家：参加投資家13名（責任投資部門責任者、エンゲージメント担当者等）

当フォーラム事務局4名（司会進行）

（所属・肩書等はいずれもミーティング開催時のもの）

ミーティングでは、まず同社の今井CHRO、松古部長から、資料に基づいて、同社が共創型化学会社に向けて取り組んでいるサステナビリティ戦略と人的資本経営についての説明があり、その後投資家との意見交換が行われました。

## 2. 質問・意見

参加投資家からは、以下のような質問や意見が述べられ、議論がなされました。

- ・統合報告書に記載されている人事戦略としての KPI の 2025 年、2030 年目標についての効果的な開示のあり方について
- ・スペシャリティケミカル会社として目指すマテリアリティの分野と開示について
- ・研究開発分野や DX 分野等での専門人材の育成の考え方について
- ・パーパス、バリューの浸透を効果的に進める施策につき、社員個人への浸透やリーダーに求める役割、人事評価との関連について
- ・人材多様性の中で、特に執行役員の高多様性についての現況と開示について
- ・パーパス、バリューのグループ全体への浸透のスピード感やその進め方について
- ・経営戦略と人材を連動していくことの実装化について、ありたい姿と現状とのギャップを埋めていく施策について
- ・会社が目指す方向を示す標語（キャッチフレーズ）の統一化について
- ・統合 2 社の人的資本と文化の状況の評価、2 社の融合による人的資本の強化や新しい文化の創造、統合後の目標と戦略について

最後に同社から、本日の投資家の意見を参考にして、さらに社内でブラッシュアップし、社内の施策と統合報告書の開示などに反映させたい、との表明があり、協働対話を終了しました。

本協働対話では、通常の IR ミーティングなどでは時間的な制約などから突っ込んだ議論を行いきにくい人的資本について、会社側から今井 CHRO をはじめ経営幹部の方々に参加いただき、テーマを絞った深い意見交換ができ、共通の理解が深まったものと考えています。

\*\*\*

### 連絡先

一般社団法人 機関投資家協働対話フォーラム

事務局：木村祐基、山崎直実、大堀龍介、鎌田博光

〒103-0027 東京都中央区日本橋 3-2-14 新槇町ビル別館第一 東京アントレサロン

メールアドレス info@iiccf.jp

以上